

農業技術情報

令和3年10月1日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター

十勝東部支所 015-572-3128

J A 十勝池田町 572-3131

高島支所 573-2111

池田町産業振興課 572-3118

作物名	遅速日数	生育状況		生育状況 農作業状況
秋まき小麦	+3		出芽期 (10/5)	は種始 9/17(9/22) は種期 9/24(9/27) は種終 (10/6)
馬鈴しょ	-			収穫終 9/17(9/20)
てん菜(移植)	+5	根周 426(392)cm		
てん菜(直播)	+4	根周 384(342)cm		
大豆	+6	草丈 59.5(73.0)cm 主茎節数 11.0(11.5)	着莢数 538(530)個/m ² 成熟期 9/27(10/3)	
小豆	+3	草丈 58.0(54.9)cm 主茎節数 11.9(11.0)	着莢数 290(275)個/m ² 成熟期 9/14(9/17)	収穫始 9/17(9/27) 収穫期 (10/8)
菜豆 (金時)	-			収穫期 9/12(9/17) 収穫終 9/25(9/25)
菜豆 (手亡)	-			収穫始 9/11(9/13) 収穫期 9/22(9/21) 収穫終 (9/30)
牧草				収穫終 9/29(10/2)
サイレージ用 とうもろこし	-			収穫始 9/13(9/17) 収穫期 9/23(9/26)

1 秋まき小麦

は種作業は順調に進んでおり、町全体で80%終了しています。

(1) 遅まきの留意事項

やむを得ず10月上旬以降には種となるほ場では、表1を参考に、種子の産地を確認し、は種量を設定してください。

表1 産地別播種量(晩期播種にあたるため、255粒/m²で算出)

産地	千粒重	播種量
士幌町	40.3	10.3
足寄町・清水町	38.3 / 38.4	9.8
札内	39.9	10.2
本別町・更別村	39.2	10.0

排水性の劣るほ場では、過湿な条件での作業を避け、排水対策を徹底するようにしてください。

(2) は種深度

は種が深すぎると二段根になり、出芽ムラも重なって初期生育は劣ります。均一な出芽と良好な初期生育を確保するために①碎土を細かくしすぎない、②は種前に鎮圧する等の処理を行い、は種深度は2～3 cmとします。

浅まきの場合、出芽は早くなりますが根張りが悪くなり、その後の生育に影響してきます。また、深まきした場合は出芽が遅れ、越冬前の生育量が足りずに雪腐病発症の危険があるため、適正なは種深度を守りましょう。

(3) 雑草対策

イネ科雑草は越冬後に対処するのが難しいので、必ず秋処理を行いましょう。特に連作の場合、増加が懸念されます。

また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壌処理を実施するようにしましょう。

雑草が小麦に与える害としては「養水分の収奪」「病虫害繁殖の助長」などがあり、結果的に収量、品質の低下に繋がります。除草剤を適正に使用し、雑草対策を行ってください。

表2 秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	10a 当薬量 (ml)	使用回数
ガレス乳剤※1,2	全面土壌散布	は種後～出芽前（雑草発生前）	200～250	1回以内
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽後～出芽揃期 （雑草発生前～発生始期）	150～250	
		麦の1～3葉期 （雑草発生前～発生始期）	100～150	
ガルシア フロアブル※1,2	全面土壌散布	は種後～出芽前（雑草発生前）	150～250	1回以内
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽直前～小麦3葉期 （雑草発生前～発生始期）	100～200	
ゴーゴーサン乳剤	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	は種後～小麦2葉期 （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	300～500	1回以内

※1 イヌカミツレが多発するほ場では、使用基準の範囲内において高薬量で使用する。

※2 ガレス乳剤・ガルシアフロアブルは同一成分のジフルフェニカンを含んでおり、いずれか1回のみ使用とする。

2 豆類

好天に恵まれ小豆は+3日で成熟期を迎えました。大豆についても+6日で成熟期を迎えました。

(1) 小豆の収穫

収穫適期の目安は「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表3 小豆の収穫適期の目安 (H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫	100% (子実水分 16~18%)	熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	完熟期 (熟莢率 100%) から 2 週間以内	① 汎用コンバイン (4 条) ~ 熟莢率 90%、子実水分 25%程度 ② 豆用コンバイン (2 条) ~ 熟莢率 80%、子実水分 25%程度

(2) 大豆の収穫

① 汚粒対策

わい化病や雑草 (特に紫色の実をつけるイヌホオズキ) は事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を行いましょう。

② 収穫適期

汚粒の原因に大豆の刈り取り時期も大きく影響します。子実水分が 20%以下 (最終は 16%以下) とし、莖表面に「ぬめり」がある時は収穫を止めましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。可能な限り適期収穫を心がけましょう。

※ コンバイン収穫について

コンバイン収穫の場合、収穫適期幅は短いため、事前にコンバインの点検・整備を入念に行いましょう。**熟莢率が 100%となり、子実水分が 20%以下**となったら試し刈りを行いましょう。莖表面に「ぬめり」があるときは収穫を中止しまししょう。

3 てんさい

てんさいは程よく雨をもらい、移植は+5日、直播は+4日で進んでおり肥大も順調です。

(1) 床土の準備

来年用の床土を準備する際には病気の恐れのない土を用意し、pH測定後、6.0~6.5になるよう酸度を矯正しまししょう。

(2) 収穫時・貯蔵時の注意点

① 収穫時の注意

・タッピングの高さに注意しまししょう。

- ・収穫作業は輸送計画に基づき集荷日の2～3日前には終了しましょう。
- ・根腐症状など腐敗が生じている部分は別掘りとし、腐敗混入を防ぎましょう。
- ・直播栽培では、移植栽培より根長が長くなります。収穫物の損傷状況を確認し、掘り取り深さや作業速度を調節しましょう。

②貯蔵時の注意

収穫したてんさいをほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、必ず防水シートなどで被覆し、腐敗・乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

～農薬の安全使用と農作業事故防止に努めましょう～

例年、夏から秋の収穫時期に事故が多くなります。

特にハーベスタによる「挟まれ・巻き込まれ」の事故に十分注意しましょう。

☆だぶつきのない格好で作業しましょう。

☆緊急回転停止装置を複数装備しましょう。

☆選別部に物が詰まった場合は、必ず回転を止めてから除去してください。

☆機械走行中の飛び乗り、飛び降りは絶対にやめましょう。

☆機械周辺では、声を掛け合って事故防止に努めましょう。